

# 松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト

多世代が集う地域の実家が育む町内家族

横浜駅から電車で10分かかるすにアクセスできる妙蓮寺駅から徒歩圏内の松見町には、子育て世代が多く移り住んできています。しかし、馴染みのない土地での子育ては孤立しがちです。さらに松見町には横浜特有の坂が多くあり、坂道で子どもと買い物袋を抱えて自転車を押す汗だくの女性の姿をよくみかけます。

新しい住民が増えている一方で、子どもの時からここで育ったという人も多くいる松見町は下町的な雰囲気があり、困っている人を見かけると「子どもはここで見ていから、荷物を先に置いておいで」「雨宿りしていつて」と手を差し伸べるようなあたたかさがあります。自然と子どもを介したつながりが生まれ、子育てサークルも多く活動しています。

こうしたつながりから、「拠点があればママたちが息抜きできるね」「ここは町内会館からも遠いから、高齢者がお茶を飲める場所があればいいね」という声が出てきました。そこで、地域にあるシエ

アハウスの空いている昼間の時間帯を活用して、誰でも気軽に立ち寄ることができる週二回の地域の居場所「てんこもりのわ」ができました。子育ての愚痴を先輩ママが聞いたり、折り紙講師資格を持つているスタッフが子どもや高齢者に折り紙を教えたりして、自然に多世代交流が生まれていきます。「ここに来るとホッとします。実家みたい」と言われる場になりました。



中の様子が見えて入りやすくなった大きな玄関開口部

しかし利用者が増えると、今度はハード面の課題が気になります。利用しているのは古い住宅なので、すぐにドアが開かなくなったり、たくさん人が来ると靴の置き場がなかったり、手すりがない急な階段など、人が集まる場所としては問題が山積みです。「実家」と呼ぶ場所だったら食事は大事だけれど、台所が古くから調理も難しい。「やりたいことをするには、ここでは無理なんじゃない？」とスタッフが拠点の閉鎖も考えたときに、ヨコハマ市民まち普請事業を知り、さっそく手をあげました。「でも、申請がこんなに大変だなんて、まったく知らなかった」と話すのは代表の加山さん。「私たち、ほとんどパソコンもわからなかったから、応募申込書のダウンロード？どうやって？と頭を抱えた」そうです。しかし、困っていると誰かが手を差し伸べてくれるのが松見町。「書類は私がつくりますよ」という人が現れ書類をすべて作成してくれ、「設計会社に勤めていました」という人が図



壁紙や人工芝などは近所のパパたちの手も借りて整備した

て、充実した内容での開催ができました。



キッチンを改修したことで複数人での調理も可能になった。

整備によって一階が広くなったことで、子どもたちが走り回れるようになりました。ドアもスムーズに開くようになり、靴置き場も土間を広くとったことで解決。手すりがついたことで二階も活動場所として利用が可能になりました。週二回のオープンは変わりましたが、リニューアル前に近隣のほとんどの家にご挨拶に行ったり、イベントごとにチラシを配布することで、新たな人たちも訪れるようになりました。調理設備も充実したので、念願のランチの提供や子ども食堂もスタートし、それがまた人を呼んでいます。さらに、整備によって庭との連続性も生まれたので、ビアガーデンなどを開催することで地域に住む男性の利用も増えてきました。

一方で、想定を超える人数が集まり、景品が足りなくなったり慌てることもありました。その他のイベントでも、チラシを配布すると「てんこもりのわ」に入れないくらい多くの人に来てしまうことがわかり、イベントの規模と広報のバランスをどうするかという悩みも出てきましたが、着実に地域の実家として根付いてきている証ともいえます。

さらに、神奈川大学、神奈川消防署と協力して防災マップづくり



間仕切りを撤去し土間も広くしたことで一度に多くの人が集えるようにもなった



松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト(神奈川県) 整備主体...てんこもりのわ 整備場所...神奈川県松見町3丁目940番地 整備内容...地域の居場所の玄関・開口部・間仕切り変更、授乳室・シャワー室、パリアフリー化 竣工時間...令和6年2月

こもりのわ」で働く人を置きたいと考えています。そのために収益化の方法を模索中です。「悩みがあっても、ここにきて笑顔になって帰ってほしい」という「てんこもりのわ」の想いが、地域の老若男女をつなぎ、「てんこもり町内家族」を実現しつつあります。